

校長室だより No.45 1月12日(火)

身についたものだけが財産(3学期始業式)

7日からの寒波の影響で8日は臨時休校となり、本日が本校の3学期始業式でした。首都圏では2度目の緊急事態宣言が発出され、発令の範囲は他県にも拡大することが予想されます。ここ山陰も感染者数はまだ少ないとは言え全く予断は許されない状況にあります。生徒には改めて、気を緩めることなくこれまで行ってきた感染対策を確実に実施していくことをお願いしました。

* * * * *

さて、始業式で話すに内容を考えるあたり、昨年は何を話したのか([校長室だより No.18](#) 参照)を調べてみました。2020年はオリンピックイヤーであるという枕から始まり、世界9カ国で実施された「18歳意識調査」において、日本はいずれの項目においても9カ国の中でかなりの差をつけての最下位だったという衝撃的な結果について話していました。そして最後に櫻坂46の「サイレントマジョリティー」の歌詞を紹介し、「夢を持って、人に任せるな、自分で考えろ、行動を起こせ」と生徒にメッセージを送っていました。

さて、このようにして振り返ってみて気づいたのは、当たり前のように実施されると思いついていたオリンピック・パラリンピックは延期となり、人気絶頂だった櫻坂46はいつの間にか櫻坂46へとグループ名が変わってしまっているという事実でした。2020年という年は新型コロナウイルス感染症によって世界中が大変な年となったわけですが、こんなところからも、今が「予測できない不確実な時代」であることを強く感じました。

では、この「不確実な時代」にあって「確実なもの」とは何なのかを改めて考えてみました。それは「自分の中にあるもの」ではないか、と。養老孟司さんの『ヒトはなぜゴキブリを嫌うのか』※という本の中に「身についたものだけが財産」という内容の言葉があります。家も土地も金も墓には持っては行けないが、ただ身についたものだけは墓に持っていくことができる。それは人に奪われることもなく、いつでもどこでも使える。そう考えると、我々の一生というのはこの自分の中の「確実な財産」を手に入れ、磨きをかけ、積み重ねていくその繰り返しなのかもしれません。

物事に主体的に取り組む力、他者と協働して物事を成し遂げる力、新たな価値を生み出す創造力。これらは本校で「生徒に身につけさせたい資質・能力」としているものです。身についたものだけが財産。不確実で先が見通せない時代だからこそ、生徒たちには自分の中に「確実なもの」を身につけて欲しい。そしてその努力を怠らないで欲しいと願い、それを今年の3学期始業式の講話として生徒たちに話しました。

※『ヒトはなぜ、ゴキブリを嫌うのか?~脳化社会の生き方~』養老孟司著(扶桑社新書)

サブタイトルにあるように「脳化した現代社会を読み解く」という内容の講演録集ですが、これを読むと自粛期間中に「あつ森」というゲームがなぜあれほど人々を熱中させたのかがわかります。